



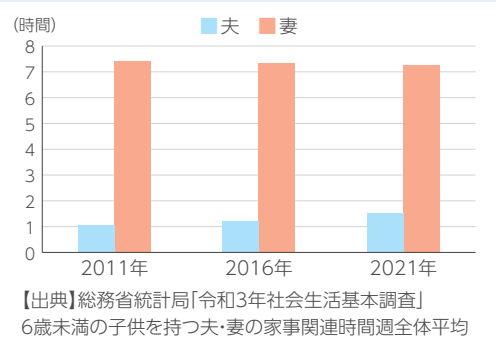
育児休暇を取得したパパに聞きました！

男女とも仕事と育児が両立できるように、令和4年10月から育児休業の制度が改正されました。企業や雇用主には、育児休業などをとりやすい環境整備や、妊娠・出産を申し出た方への個別周知・意向確認などが義務化されています。

しかし、右の図の「夫婦の家事関連時間の推移」を見ると、まだまだ男女間で大きな差があることが分かります。育児と家事を含めると、ママに大きく頼っているのが現状のようです。

ここでは実際に育児休暇を取得したパパへ、インタビューしてみました。

●夫婦の家事関連時間の推移(週全体平均)



岡田 慎平さん(パパ)
華奈さん(ママ)
陽向ちゃん

●職場が後押し

慎平パパ: 始めは育児休暇を取る予定はなかったのですが、SNSやテレビなどで男性の育児休暇について詳しく知りました。育児や家事をすることで、何よりも妻の精神的なサポートをできればと思って取得しました。

勤めている会社も男性の育児休暇取得を推進しており、育児休暇を取りたいと言いやすい環境だったのも良かったと思います。先に育児休暇を取得した同僚もいたため、安心して休むことができました。

●育児休暇の生活で感じたこと

慎平パパ: 育児休暇中は、料理、掃除、洗濯、赤ちゃんの世話など授乳以外のことは何でもやりました。出産は本当に大変なことです。なるべく妻に負担がかからないよう、妻には休息をとることを優先してもらいました。

赤ちゃんが眠ってくれず思い通りにいかないこともありましたが、首が座ったり、日に日に大きくなる我が子の成長を実感できてとても嬉しいです。

華奈ママ: 赤ちゃんとの時間がゆっくり取れたため、赤ちゃんはパパのことが大好きです。パパの顔を見ると泣き止んだり、全身を使って喜びを表しています。夫が育児休暇を取ってくれたことで、私も赤ちゃんを「かわいい」と思える気持ちの余裕が持てました。

●育児休暇を取ることにについて

慎平パパ: 男性が育児休暇を取るためには、周りの人のサポートや社会全体の理解が必要だと思います。「男は働き、女は家庭を守るもの」という考えを持つ方もいますが、役割にとらわれるのは良くないことだと思います。赤ちゃんの成長を妻と一緒に喜び合いたいし、思いを分かち合えることがお互いの支えになります。初めてのことばかりで不安になることもありますが、今しかない時間を大事にしていきたいです。

